

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第2委員会室、 全員協議会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和2年9月17日(木曜日)	開 議	午前 10時 00 分
		閉 議	午後 3時 40 分
出席委員	◎菱田、○赤坂、田中、小川、奥野、藤本、竹田、(齊藤議長)		
出席理事者	【市長公室】鳥山シティプロモーション担当室長 【産業観光部】吉村部長 [商工観光課]三宅課長、栗林観光担当課長、篠部担当課長、 坂田商工振興係長 [光秀大河推進課]松本課長 [農林振興課]笹原課長、西田営農推進係長、平井食農交流係長 [農地整備課]並河課長 [農業委員会事務局]吉田事務局長、大石次長		
出席事務局	鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

- 1 開議 (委員長あいさつ)
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査 (説明～質疑)

[産業観光部入室]

- ・産業観光部長あいさつ

◎第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定 (産業観光部所管分)  
(5款労働費・6款農林水産業費・11款災害復旧費)

[説明]

- ・産業観光部所管課長順次説明 (歳出歳入一括)

1 1 : 2 8

《質疑》

<田中委員>

159ページ、丹波くりの栽培面積は。

<農林振興課長>

数字を持ち合わせていないが、JAへの出荷の実績は、平成30年度は777キログラム、令和元年度は1,451キログラムであった。栽培面積は後ほど報告する。

<田中委員>

162ページ、中山間地域等直接支払推進事業について、中間管理機構を通じ

- て集積された面積は。
- <農林振興課長>  
令和元年度で7.9ヘクタールである。
- <田中委員>  
集積された農地はしっかり耕作されているのか。
- <農林振興課長>  
しっかり管理されている。
- <田中委員>  
172ページ、森林活用推進事業経費の中のペレットストーブ購入補助金について、このペレットストーブはどこで生産されているのか。
- <農林振興課長>  
市内では、七谷川木材工業社である。
- <田中委員>  
森林活用推進事業であるので、亀岡産のペレットストーブである必要があると思うが、亀岡産であることが、補助金の交付条件になっていないのか。
- <農林振興課長>  
交付条件になっていない。
- <田中委員>  
広い意味で見れば国産の森林が活用されることになるが、できれば亀岡産であることを補助金の交付条件としていただきたい。
- <赤坂副委員長>  
158ページ、都市・農村交流事業経費のアグリフェスタについて、毎年同じことをやっているが、何か新しいことを考えているのか。
- <農林振興課長>  
場所を変えて人を集めることを考えているが、今年度はコロナのため、開催は未定である。また、今年度は各直売所に協力を得て、スタンプラリーを開催しようと考えている。
- <小川委員>  
158ページ、都市・農村交流事業経費の農業・農村体験事業委託料について、先ほど、8組23人の応募があったと説明いただいたが、どのように募集したのか。
- <農林振興課長>  
日本都市農村交流ネットワーク協会に宣伝を委託したり、市ホームページなどで募集した。
- <小川委員>  
これは、8組限定であったのか。
- <農林振興課長>  
限定はしていない。
- <小川委員>  
今後も積極的にPRしてもらいたい。
- <菱田委員長>  
シティプロモーションとうまく絡めて、取り組んでいただきたい。
- <竹田委員>  
158ページ、農業事務経費の農業公園の指定管理について、来年度変わるが、

シルバー人材センターの管理はどうであったのか。

<農林振興課長>

令和3年3月31日で指定管理が変わるが、シルバー人材センターはイベントを開催するなど確実な管理をしていただいた。

11:41

[ 休 憩 ]

13:00

◎第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定（産業観光部所管分）  
（5款労働費・7款商工費）

[説明]

・産業観光部所管課長順次説明（歳出歳入一括）

13:48

《質疑》

<田中委員>

156ページ、雇用対策経費のハローワークプラザかめおかを通じて、就業した人数は。

<商工観光課長>

人数は個人情報の関係などがあるので把握していない。

<田中委員>

人数を把握することが個人情報に関することになるとは思わない。お金を出しているのだから、しっかりと連携してもらいたいと思うがどうか。

<商工観光課長>

ハロワークと協議していく。

<田中委員>

177ページのプレミアム付商品券事業経費のシステム構築等業務委託の詳細な説明をお願いします。

<商工観光課長>

当該事業は、非課税世帯と3歳半までのお子さんがある子育て世帯を対象に実施するため、対象者を抽出するためのシステム改修等の経費である。

<赤坂副委員長>

178・179ページの観光推進経費について、森の京都DMOは何をしている、どのような成果が表れているのか。

<商工観光課観光担当課長>

マーケティングとして、スマートフォンでのアンケートを取っていて、961名の集計がある。観光客動向調査として、1,771名を対象に、日本人1,361名、外国人が410名である。マーケティング研究会を年6回開催している。チャリウッドというイベントに出店し、来場者が20万5,000人あった。京野菜の商品化、インバウンド推進のための顧客プロモーションを実施するなど多種多様な事業を実施している。

<赤坂副委員長>

いろいろされているが、あまり観光客を見かけない。もう少し方法を見直して、

やり方を変えていってほしいと思うがどうか。

<商工観光課観光担当課長>

DMOと協議して、再度見直していきたいと思う。

<赤坂副委員長>

市民の税金を使っているのに、経済効果を上げるためにされているのは分かるが、無駄をなくして見直してもらいたい。

<藤本委員>

176ページのプレミアム付商品券事業経費について、商品券は何冊売れたのか。

<商工観光課長>

36, 673冊である。

<藤本委員>

作成したのは何冊なのか。

<商工観光課長>

7万冊である。

<小川委員>

178・179ページ、観光推進経費の匠ビレッジの利用者状況は昨年と比べてどうか。

<商工観光課観光担当課長>

対前年度比97.9%である。

<小川委員>

シティプロモーション担当室長としっかり連携して、情報発信していただきたい。

<市長公室シティプロモーション担当室長>

いろいろコンテンツが多すぎて、情報発信が分散している状態なので、いくつかに集約したほうがよいと考える。産業観光部や森の京都DMOと連携しながら、効率的なシティプロモーションの策を作っていきたいと考える。

14:09

[ 休 憩 ]

14:20

#### 4 事務事業評価

[産業観光部入室]

<菱田委員長>

事務事業評価に入る前に、午前中の田中議員の質疑、丹波くりの作付面積についての回答を受けることとする。

<農林振興課長>

丹波くりの令和元年度の実績であるが、作付け面積は5.8ヘクタールで、農家数は72人であり、JA京都丹波くり部会亀岡支部の部会員である。販売実績は約199万円で、前年度は105万円であった。

(1) 商工業振興対策経費（かめおか元気企業支援事業補助経費、かめおか元気商店街等支援事業経費）

・商工観光課長 資料に基づき説明

14 : 35

《質疑》

＜赤坂副委員長＞

人件費はいくらか。

＜商工観光課長＞

商工業振興対策経費の中の亀岡商工会議所事業補助金の全体額が1,450万円となっている。今、申し上げたそれぞれの事業とは別に、企業支援の場合であれば、専門員の人件費がトータルで180万円。その他に、商店街を担当してくれている人件費については、年間で120万円となっている。

＜赤坂副委員長＞

いつも祭り関係の同じようなところばかりに補助金が出ている。一過性で終わることのないように、続くような元気事業にしてもらいたい。1,450万円ではちょっと少ないと思う。若い人もこの事業をやりたいと思っているが、資金がなくできないと言っている。そのような若い人たちができるように枠を広げることはできないのか。

＜商工観光課長＞

御指摘のとおりだと思う。今、商店街に誘客をするのは大変厳しい状況の中で、コンスタントに1年通じていろいろな事業をして、それを起爆剤として、店に足を運んでいただくのが一つのやり方であると考えている。

予算については、多く要求しているが、なかなか工面できてないのが実情である。配分された予算をできるだけ多くの団体さんに使っていただく。ただ、それが年に一回のみになっている場合も現状にある。今後もいろいろな知恵を絞り、次につなげていけるような形で、事業者と一緒に考えていければと思う。

＜赤坂副委員長＞

やるのならしっかりお金を出してやったほうがよい。今日は、鳥山室長も来られているので、ごそっと変えて、本当に元気が出るようにやってもらいたいがどうか。

＜商工観光課長＞

当事業の補助金に関しては、市が一方的にというよりも、それぞれの団体で考えていただくための支援となっている。今、御意見いただいたような形で、まちを挙げてできれば本当はよいのだが、商店街にもそれぞれ体力等がある。例年、商店街でいろいろな事業をしていただいている中で、今、亀岡には19の商店街がある。中には1人、2人というようなところもあるので、全てがそういったイベントや催しをされるわけでは決してなくて、財政的に厳しいところもあるのが現状である。やるところに対しての支援的な形にはなっているが、まちを挙げて、できることであれば検討もしていきたいと考える。

<赤坂副委員長>

本当の商店街をつくっていくために、あれもこれもではなく、新しい発想で、亀岡商工会議所と連携してやってもらいたい。

<竹田委員>

いろいろな市町村へ行くと、企業が開発した商品等を市役所庁舎に置いてPRしているが、そういうPRはできないのか。

<商工観光課長>

現状として、できていない。事業者からの要望もあるが、いろいろな形で市が催し等を計画する中で、そういった展示コーナー、販売コーナーなどを設けて発信しているが、常設はない。

<産業観光部長>

補足して、今、御指摘のあったことは大変大事だと思っている。この事業によって開発されたものにかかわらず、現在はふるさと納税の返礼品として、全国に向けてPRをしながら発信しているところである。

<竹田委員>

そういうことも大事であると思うが、亀岡市の紹介として、ホームページに掲載するなど、頑張っている企業がPRできるような場は作れないのか。

<担当課長（亀岡商工会議所派遣）>

今度、亀岡ブランドを楽しんでもらおうと、亀岡物産フェアをトロッコ嵯峨駅で開催する。この中で、亀岡牛や亀岡野菜の展示販売コーナーを設けて、亀岡市と亀岡商工会議所とがコラボして、亀岡で作られたいろいろなものをPRしていく。各委員さんにも、御参加いただきたいと思う。

<奥野委員>

新技術開発もされて、この支援については今後も進めていっていただきたいと思う。一過性でなくて、やはり企業側も努力して新製品をPRしていく。しかし、行政としてもそれをバックアップしていき、持続性のある企業を育成してほしい。また、イベントについても、今後、いろいろ手法を変えながら、毎年やられている行事だと思うので、バックアップをお願いする。丹波篠山市へ行くと、地場産業、あるいは産業会館があって、丹波篠山市にある企業が作った商品等を展示している。それを見ると、この市にはこのような企業があり、このような商品を作っているということが一目で分かる。これが、やはり行政としてのバックアップではないかと思う。今後の進め方として、そのようなことも考慮して、継続的に支援していく必要があると思う。

14:51

《評価》

<菱田委員長>

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。

・赤坂副委員長

必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：1点、成果：1点

・田中委員

必要性：3点、妥当性：3点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

・小川委員

必要性：5点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

- ・奥野委員  
必要性：5点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：4点、成果：4点
- ・藤本委員  
必要性：5点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点
- ・竹田委員  
必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

14:54

## 《総合評価結果のまとめ》

### ＜菱田委員長＞

各委員の点数を合計して、100点換算した結果、分科会としての点数は73点となり、評価基準は「おおむね適正である」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

### ＜赤坂副委員長＞

「おおむね適正である」と出たが、やはりこの補助金、助成金の出し方も少し間違えていると思うし、無駄ところもたくさんあるので、しっかりPRして、新しい人を入れてもらいたいし、もっとコストを入れてやってほしい。優先順位を決めて、商店街を一つずつ立て直すという形でやってもらいたいがために「1」にした。とても期待しているので、できるだけ頑張ってもらいたい。

### ＜奥野委員＞

目的は本当によいことなので、「5」を入れた。今後も継続していただきたいので、公的関与ということで、行政もバックアップしていただきたい。各町の祭り等も、一過性でなく、継続的にいろいろなアレンジをしながら続けていって、そこへ市も補助をしていくようなことでよいという思いで、この点数を入れた。

### ＜竹田委員＞

商店街によって様々なので、金額は少ないし、惰性でやろうかというようなニュアンスも少し感じる場所がある。そこは亀岡商工会議所にしっかりやってほしいということなのかもしれないが、財源をつぎ込むことによって、そこに新たな芽を生むことになるので、非常によい事業かなと思っている。その辺をうまく活用できるように、市のほうからも少しプレッシャーをかけていただいて、亀岡商工会議所と連携しながらやっていただきたい。

### ＜藤本委員＞

評価でいけば「おおむね適正」だが、手広くなり過ぎて、支援が総花的になってしまっている。やっぱり商品開発や商店街の活気づけは、企業や地元の商店街がやらない限りは、ちょっとくらい補助しても、駄目である。市民に多く来てもらえるような、集中的な企画をしていったほうがよいと考える。従来の商店街に対しては、自らで盛り上げることを考えて取り組まなければならないと思う。

### ＜小川委員＞

この事業は、必要性が本当に高いと思っている。やはりかめおか元気企業、かめおか元気商店街という、事業名でやっている限りは、やっぱりそれぞれが元気になるような、元気の輪が広がるような事業に拡充してもらって、お金の出し方やアドバイスの仕方を見直してもらいながら、本当に元気な商店街、元気な企業になるようにと願う。

<菱田委員長>

今までの意見を聞いて、部長から意見等はあるか。

<産業観光部長>

いろいろと御指摘いただいたことは、私どもも常々感じていることでもあるし、できるだけ皆さんの思いが形になるように、これからも取り組んでいきたいと思う。

行政がやっている補助事業等の公助の部分はあくまでもきっかけでしかないと私たちも思っている。やっぱり、企業や組織、団体が自立的に共助、自助というところを頑張ってもらわなければ、一過性にしかならないと思う。このことがきっかけとなって、それぞれの組織、団体が連携を強めたり、組織力を上げたりしていただきたい。また、今、商店街等は、かなり閑散としてきているような状況であり、このコロナ禍ということもあるけれども、組織そのもので一緒になったり、新しい組織ができたりというようなことも、今、生まれてきているので、そういったところとも亀岡商工会議所と行政が連携する中で、まちの活性化につなげていければと思っている。

<菱田委員長>

部長から今までの経過を見てコメントいただいたわけであるが、当委員会として総合評価をさせていただきたいと思う。

それぞれの委員の皆さんからの御意見を踏まえる中で、「拡充」が適正ではないかと思う。ただし、今までどおりのやり方でなく、それぞれ改善事項がある。部長の今のコメントの中にもあったように、きっかけ作りはもちろん大事である。しかし、きっかけを作って何年たつのかというところも正直言っているかと思うので、やはり今後は、もちろん亀岡商工会議所としっかり連携を取りながらやっていく中で、この25万円なりの補助をもらうことによって、どう次につなげるのか、どう広げていくのかをしっかりとチェックしながら支援していただきたい。当然、その中で予算が必要であれば、しっかりと予算づけもしていただきたいし、新しい取組が生まれるのであれば、どんどん応援もしていただきたいと思う。

まとめると、商工業振興対策経費（かめおか元気企業支援事業補助経費、かめおか元気商店街等支援事業経費）について、評価結果は「拡充」とする。附帯意見としては、「亀岡商工会議所とさらに連携を深め、事業内容を見直し、しっかりと予算を確保されたい。また、各事業を一過性で終わらせるのではなく、どのように将来につなげていくのかについてのチェック体制を整えられたい」というようなまとめ方で評価する。文言は正副委員長に一任願う。

（了）

15：04

[ 休 憩 ]

(2) 観光推進経費観光推進経費（亀岡市観光協会運営費補助経費、亀岡市観光協会宣伝事業等補助経費）

・商工観光課観光担当課長 資料に基づき説明

《質疑》

＜赤坂副委員長＞

宣伝事業等補助金と花の観光かめおか推進事業補助金の内容は重複しているのではないのか。

＜商工観光課観光担当課長＞

事業としては同じだが、支出の仕方が若干異なっている。

＜赤坂副委員長＞

宣伝事業をこの安い金額でどのようにするのか。

＜商工観光課観光担当課長＞

観光宣伝事業の内訳については、人件費や福利厚生費、観光プロモーションへの参加旅費、E T C等、足利ゆかりの会の出席等の旅費、交通費、通信運搬費、消耗品費に充当している。そのほか、印刷製本費や賃借料であり、直接何かの広告を出して宣伝することは、金額的には低くなっている。

＜赤坂副委員長＞

一度、宣伝のやり方をしっかり考え直して、どうすれば一人でも多く亀岡市に来てくれるのか、どうすれば一本でも大根が売れるのか等、考えていくことが必要だと思う。

＜田中委員＞

評価資料の成果欄に、元年度の観光消費額が計上されているのだが、この積算根拠は。

＜商工観光課観光担当課長＞

数値の集計は、京都府の基準に応じた書式で、各関係の観光施設、機関に照会して計上している。

＜田中委員＞

観光客数に単価を幾ら掛けているのか。

＜商工観光課観光担当課長＞

そうではなく、トータルの金額と人数である。一人あたりは最終的に金額を人数で割っている。

＜菱田委員長＞

今、トータルの金額と人数であるとおっしゃったけれども、その算出根拠はどこにあるのか。

＜商工観光課観光担当課長＞

各施設からヒアリングして、数値を取得している。

＜藤本委員＞

以前、「るるぶ」で亀岡の小冊子を作っていたが、今も作っているのか。また、

デジタルサイネージ配信観光映像制作は、これから絶対大事になってくると  
思うが、もう少し具体的な説明をお願いしたい。

<商工観光課観光担当課長>

デジタルサイネージは、多言語ホームページの充実、JR 亀岡駅の電子掲示板、  
トロッコ嵯峨駅の掲示板のことである。小冊子はリーフのほうで作成してい  
る。また新たに光秀の関係でゆかりのマップを作成している。

<小川委員>

この宣伝事業について、元年度を振り返り、課題はどのような点にあると考  
えるか。

<商工観光課観光担当課長>

方面的なものがあると思う。今でこそマイクロツーリズムがあるが、やはりこ  
の地域から2時間以内の圏内、西ならば岡山県、東ならば愛知県へのプロモ  
ーションがもっと必要だと思っている。

<奥野委員>

今後の課題としてどのようなことを考えているのか。

<商工観光課観光担当課長>

インバウンドがかなり減っている現状の中で、ターゲットをインバウンドから  
国内寄りにしなければならないという認識を持っている。まずは国内のお客  
様を京都や亀岡に来ていただくことに重点を置いてやらなければいけないと  
思っている。

<藤本委員>

例えばスポット宣伝のような形で、京都に焦点を当てて、京都から亀岡へ人を  
呼ぼうとか、そういうことは考えていないのか。

<商工観光課観光担当課長>

近辺では、能勢町や高槻市での観光プロモーションを行っている。また、京都  
駅やトロッコ嵯峨駅でのプロモーションも行っている。

15 : 26

《評価》

<菱田委員長>

これより、評価を行う。各委員は個人採点について、順次報告を願う。

・赤坂副委員長

必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：1点、成果：0点

・田中委員

必要性：4点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

・小川委員

必要性：5点、妥当性：4点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

・奥野委員

必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：4点、成果：3点

・藤本委員

必要性：5点、妥当性：5点、効率性・費用対効果：3点、成果：3点

・竹田委員欠席

《総合評価結果のまとめ》

＜菱田委員長＞

各委員の点数を合計した結果、分科会としての点数は73点となり、評価基準は「おおむね適正である」となった。この評価点数・評価基準を踏まえて、総合評価結果について協議を行いたいと思うが、意見はあるか。

＜赤坂副委員長＞

宣伝事業は、絶対必要な事業であるにもかかわらず、今まで経費が少なすぎた。しっかり見直した上で、継続して必要に応じて拡充してもらいたい。

＜田中委員＞

観光消費額も前年比14%増で、一定の成果は出てきていると思うが、今年はコロナの関係があるので、これから大きく減少していくと思う。そういう点で言えば、拡充していくことは必要だと思う。

＜小川委員＞

点在するいろいろな文化等の資源を取りまとめてもらい、やっぱり一つの大きな柱、市としてこういう柱で亀岡観光をPRしていくことをもう一回組み立ててもらいたい。それを亀岡市観光協会と情報を共有しながら行ってもらいたい。妥当性を「4」としたのは、公的関与の範囲は適切であると思うが、もう少しまとめて、ほかと連携してやってもらえればよいと思っている。見直して、さらなる拡充をお願いする。

＜奥野委員＞

ターゲットイヤーと銘打って、大河ドラマを機に亀岡をPRしていこうという意気込みの中で、いろいろな施策をやられていることは、当然必要性がある。行政も本当に力を入れて、市民を巻き込んで、これは亀岡市の一つの大イベントであり、今後も行政が関わっていく必要があるため、妥当性としては「5」であると思う。

費用対効果ということになると、コロナ禍の中で、精いっぱいやられていると感じられる。今後も、コロナに負けずに頑張っていたきたいと思う。

成果についても、コロナ禍の中で頑張っていたが、大河ドラマだけで終わらず、これを機に今後ずっと続けていくいろいろな方法を取りながら、亀岡をPRしていくという意味では、十分な成果が今は現れてないけれども、コロナ禍においても頑張っていたきたいと思う。

＜藤本委員＞

必要性と妥当性を「5」にしたのは、亀岡市観光協会だけが亀岡観光のPRをするのではなく、やっぱり亀岡市も自分の市をPRすることに、責任があり、重要性があるからである。亀岡市のホームページを見直して、さらなる充実に努めていただきたい。

＜菱田委員長＞

それぞれ委員の皆さんから評価された経緯等について説明いただいた。これを総合的に見ると、「拡充」していくべきではないかと考える。ただし、この亀岡市観光協会との連携について、やはり行政と亀岡市観光協会が亀岡の観光を引っ張っていく車の両輪であるという意識が大事だし、そのためには、

やっぱりスクラップ・アンド・ビルドで、今までやっているからそのとおりではなく、さらに広めていく。そのことが住みたいまち、行ってみたいまち亀岡につながり、シティプロモーションになっていくと思う。

このことについて、部長から何か思いがあればお伺いしたい。

<産業観光部長>

御指摘いただいた点について、参考にさせていただきたいと思うし、私どももその点については常々見直しながら、考えて進めているところである。

昨年度の事務事業評価で見ると、ここは昨年度だけの入込客数しか書いていないが、おととしから比べると、18%増で、50万人増えたという数字が出ている。結果としてはよかったが、コロナの影響もあって、国外から国内へ、団体旅行から個人旅行へと、ターゲットそのものが変わってきている。今後については、私どものほうの中でもマーケティングをもっと重視しながら、ITを使った戦略も強化していかなければならないと、手法や戦略の見直しを考えているので、亀岡市観光協会や森の京都DMOと連携しながら、庁内においては、新しくシティプロモーション担当もできているので、そういったところとも一緒になって、亀岡の観光を盛り上げていきたいと思う。また御協力、御支援をよろしくお願いしたい。

<菱田委員長>

まとめると、観光推進経費（亀岡市観光協会運営費補助経費、亀岡市観光協会宣伝事業等補助経費）について、評価結果は「拡充」とする。附帯意見としては、「コロナ禍にある社会情勢を鑑み、観光施策をスクラップ・アンド・ビルドにより見直し、亀岡市観光協会や森の京都DMO等と連携強化を図り、行ってみたいまち、住みたいまち亀岡を目指し、シティプロモーションにつながるよう、より一層充実した取組とされたい」というようなまとめ方で評価する。文言は正副委員長に一任願う。（了）

～散会 15:40